

先日朝日新聞のT氏が珍しい食べ物が手に入ったからとわざわざ届けて下さいました。調度お昼が近かったので、駅前のそば屋で「つけ麺」を食べながら参院選挙の情勢と鉄鋼原料の大幅な値上懸念が話題になりました。T氏は「日本の製造業の中で、国際競争に勝てる唯一の素材産業は製鉄業しかありません。日本の自動車、電器産業等を引っ張っていく重要な役目があり、日本の製鉄業は質、量とも極めて優れていたから電機、自動車等が世界へと雄飛できたとも言えます…」と話されました。T氏と入れ替わるように時事通信社のK氏がこちらにも名物の「豆大福」をと遠路訪ねてきて下さいました。K氏は「地球の周期から考えますと、50～60年以内に地球は氷河期に入りますね…」と言われ思わず驚き「それでは人類滅亡ですか?」と聞きました。「そこまではいかないと思いますが、太陽の……」人類は今地球温暖化防止に躍起なのに、大自然の百万年周期は氷河期を迎えているのか…としばらくは黙して語らずでありました。

それから数日後、偶然にも君津製鉄所のH氏から「鉄作りとCO<sup>2</sup>」の話を聞いたので、本人の了解を頂き、私の感じたままを極めて要約して書きました。FAX通信No179で既にかきました様に、鉄作りは鉄鉱石から不純な炭素等をCO<sup>2</sup>として分離させ、良質な鉄鋼を製造するのですから、CO<sup>2</sup>排出とは、不可分な関係にあります。H氏は「鳩山前首相がCO<sup>2</sup>、25%削減宣言はもう日本では鉄を作るなどに等しい事です。日本の製鉄所は極限のCO<sup>2</sup>排出削減の努力と莫大なコストを払って来たのですから…これ以上の削減は世界各国も削減を必ず実行させる調整能力(政治力)を持たなければ、日本負担は過大なものになります。」

CO<sup>2</sup>はすべて悪人説で知られていますが、意外にも善人で大気中には0.038%しか存在せず、空気より重く、水に溶けやすく、燃えにくい性質を持っています。CO<sup>2</sup>には「温室効果」があり、太陽光線によって大気、地球表面が暖められて、人間をはじめ、すべての生植物は生かされています。この熱量はそのままですと赤外線によって宇宙空間に放出されてしまいますので、この地球の温度の放出を防いでいるのが、CO<sup>2</sup>、水蒸気、フロンガスによる温室効果(平均14℃)であります。

またCO<sup>2</sup>に含まれている炭素は、地球上には豊富にあり「炭素循環」と言う重要なメカニズムを持っており、地球の樹木、草花、植物に吸収され食糧となり、燃料となり、また大気中にCO<sup>2</sup>として循環するメカニズムを持つCO<sup>2</sup>は8千億トンであります。この産業循環は森林、樹木等にも凡そ2兆トン、地中に浸透し地下資源とし蓄えられる量が凡そ4億トンあり、最も多いのは海中に吸収される量は凡そ38兆トンと言われます。海中の緑葉植物の生長にもCO<sup>2</sup>が必要不可欠なものかも…と思いました。こうした善人CO<sup>2</sup>を悪人にしないような日常の私達の努力が必要です。CO<sup>2</sup>排出量は生産業界33%、一般家庭、サービス業33%、自動車等19%、家庭生活からのCO<sup>2</sup>排出が急激に拡大しております。朝日新聞のT氏が帰りげに「東京湾岸に3つ製鉄所がありますが、30年後、今のまま存在するとは僕は思えない!」と微妙なニュアンスを残して帰りましたが、私はむしろかつての八幡製鉄所の様に親から子へ、子から孫へ製鉄所に勤める事を「家業」とし、親子何代も続いて働く事に誇りと喜びを持てる製鉄所になって欲しいと思っています。そのためにも医療界や東京電力の様に君津製鉄工業高校でも作られて、次世代を養成させる事が人口増加を促し、親子何代共に暮らせる君津市のまちづくりにとお願いしたい。～書き終えた今、朝の日に『鉄鋼大手CO<sup>2</sup>分離回収』と大きなタイトルが載っていました。～